

三芳地区 タウンミーティング開催報告

【日 時】令和6年7月21日（日）10：00～11：30

【場 所】東予北地域交流センター

【参加者】地域：14人（三芳連合自治会長など） 傍聴3人

市：3人（市長、建設部長、三芳公民館長）

【テーマ】1 市道楠浜北条線における三芳公民館前交差点の交通安全対策

2 小学校再編後の影響

概 要

参加者の発言要旨

市の発言要旨（及び対応）

1 市道楠浜北条線における三芳公民館前交差点の交通安全対策

一部供用開始後、三芳公民館前交差点で車同士の物損事故が発生した。また通勤時間帯に交通量が増加しており、PTA役員会でも危険箇所として認識している。

今後交通量がさらに増加することが予想されるため、事故のリスクも高まる懸念がある。

子どもたちが安全に通行できる環境を整えることが重要で、信号機の設置が一番抑止力があると思うので、早期設置に向けて動いてほしい。

令和6年3月27日に一部供用を開始した市道楠浜北条線の工事進捗率は84%である。（R6年6月末現在）この供用により交通量が増加し、特に通勤・通学時間帯に高校生の通行が多くなったのではないかと考えられる。7月9日に実施した交通量調査では、朝と夕方の時間帯で255台の通行を確認した。

警察と協議を重ねており、全線供用開始後はさらに交通量の増加が予想され、対策として信号機の設置を検討していると聞き及んでいる。

一時停止の取締り強化や通学時間帯の警察による注意喚起を行う方針で、交通事故防止のため市民の声を警察に届け、安全対策を強化していく。

最近、帰宅時間帯に事故が発生したこともあり、追加の安全対策として横断幕や注意看板の設置を進めており、供用開始前に引き続き警察と連携し、安全対策を講じていく。

交差点がT字から四差路に変更されたことに伴い、新たにできた市道が優先道路となった。これにより、以前は一時停止が不要だった県道側が一時停止を求められるようになり、地元利用者は戸惑いを感じていると思う。

特に、以前の通行習慣からの意識の変化が求められるため、警察は供用前に交差点で注意喚起を行うなどの対策を講じているが、信号機が設置されていないことによる危険性も指摘されている。

実際に事故が発生した事例もあり、交通量の増加が予想される中、市としては定期的に交通量を調査し、信号機設置の必要性を警察に提案していく方針である。今後も交通安全対策を強化し、早期に信号機が設置されるよう努めていく。

2 小学校再編後の影響

令和6年5月時点の児童数は、三芳小85人、楠河小80人、庄内が64人であり、将来的には学校の統廃合もやむを得ないと思っている。しかし、学校がなくなることによって地域が寂れてしまうのではないかと懸念もある。

行政は小中学校の再編案について地域の声をどのように反映させていくことを考えているか。

また、学校の統廃合が行われた場合、放課後児童クラブや公民館の運営についてどのように考慮されるのか。地域としてもその点について検討していきたい。

三芳小、庄内小、楠河小の児童数は今後も減少する見込みで、2045年には三芳小42人、庄内小23人、楠河小47人と予測されている。

このような状況で、学校規模の適正化に関する審議会を設立し、教育環境の改善について協議が進められている。今年度中に7回の審議会を開催し、基本方針や計画を策定した後、パブリックコメントを実施し、市民の意見を反映させる予定である。

若者や子育て世代が西条市に戻ってくるようなまちづくりが求められているが、地域活性化と教育環境の整備のバランスは難しい課題である。

他地域でのタウンミーティングでは、地域の衰退に関する意見が多く寄せられ、教育環境の改善にはクラス替えが可能な規模が必要との声もあった。

また、施設の老朽化による安全性の問題も懸念されており、教育環境を第一に考えた施設整備が求められている。地域住民がどのように教育に関わっていただけるか考えながら、コミュニティスクールの取り組みも進めていく必要がある。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
今後、三芳小学校の児童数が減少し、複式学級になる場合どのように授業を進めていくのか。 新1年生が上級生になる頃には、人数が少なくなっていると思うので、複式学級のことなど不安はある。	複式学級の導入については、教員の指導方法にも変化が生じることで先生の負担を懸念している。 学校規模の適正化に関して、多角的な検討が必要であり、地域の声を大切にしていきたい。統合することになったときには、通学バスの導入を検討し、さらに地域住民も利用できる方法を考える必要があると思う。
統合する場合はどの学校に集約され、学校設備はどうなるのだろうか。また、遠方から通う子どもたちはどうなるのだろうか。	通学路に関しては、中学校では自転車通学が増えることにより通学路が分散するため、交通標識やルールの点検が重要である。特に交差点の安全性については、地域の声を反映させながら改善を進めていく必要がある。 また、児童クラブや学校の敷地内での活動についても保護者の意見を尊重しながら進めていく必要がある。全体として学校の教室数を減らしていく方向性ではあるが、慎重に検討する必要がある。 公民館については、地域住民の生活に密接に関わる施設であり、集約化する考えはない。相談窓口や社会教育の場としての役割をしっかりと維持していく。
3 その他	
大明神川左岸線沿いの雑草	
大明神川左岸の雑草がガードレールを越えている箇所がある。通行上の支障となっているので対応をお願いできないか。	交通に支障があってはいけないので、市としては毎年1回除草作業を予定しており、例年8月お盆までに完了するよう地元業者に依頼し手配を進めている。状況によって作業を前倒しすることも検討すべきであると考えているため、具体的な情報があれば教えてほしい。 なお、宮内神社近くの土手沿いの除草作業は7月中に施工予定と聞いている。
河北子ども園駐車場	
河北こども園駐車場の舗装について、利用者から困っているとの声を聞く。出入り口だけでも舗装できないか。	園内の整備を優先する方向で、今年度はプールの修繕を行う。駐車場の舗装に関して、対応すべき課題であると認識しているが、優先度を考慮しつつ、判断していきたい。
公民館多目的ホール	
公民館多目的ホールが雨漏りにより床が濡れている時がある。避難所にも指定されているので修繕できないかと声があるので、対応をお願いできないか。	雨漏りを放置すると傷みが進行するので、専門業者により雨漏りの原因を特定し、修繕方法や修繕時期について検討してまいりたい。
違反ごみの回収	
ゴミステーションに違反ごみが出されている場合、収集業者がシールを貼ってゴミステーションの外に出している。 鳥などがつつくこともあるため中に残すことはできないか。	地域の方々がご苦労されていることを承知している。既に収集業者に対し、違反ごみをゴミステーションの中に戻すよう指示している。 ただ、違反ごみを地域住民に知らせるために地域の方が外に出していることもある。他の地域でも同様の問題があると聞いているので、皆さんに周知徹底をお願いしたい。
旧指定ごみ袋の使用期限	
一人暮らしもしくは高齢者の家庭ではごみ袋が余っているのではないかなと思う。 2年間の期間を定める際に予想を立てていたかなと思うが、一度実態把握をしてみてもいいのではないかな。	定点調査を実施していないが、通勤途中に目視で確認する限り、5～6割が新しいごみ袋という地域もある。 ごみ総量としては、一般ごみで約15%の削減効果が出ている。状況把握のため実態調査をしてみてもいいように思う。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
地域では、無料のごみ袋の使用期間を延長できないか、使い切るまで使用できないか等の声がある。市はどのように考えているか。	排出したごみの量に応じて処理費用を負担する従量制を導入するものであり、これによりごみ排出量が減少すると考えている。 現在、2年間の移行期間を設けており、令和7年3月末で終了する。審議会では、無料ごみ袋の剰余枚数について例えば、ごみ減量に努めごみ袋を節約してきた人や、少人数家庭と大人数家庭の不公平感など、様々な角度から議論が交わされたが、最終的には2年間の答申を受けた。 また、ごみ袋の残りがある限り使用をした場合、減量化が遅れ、ごみ処理費用の削減にもつながらず、将来世代への負担にもなってくる。 無料のごみ袋では減量意識が育たないため有料化が必要だと認識している。このような経緯から、混乱を避けるため移行期間として2年間を設けている。
ごみを節約してきたにも関わらず、有料化後はごみ袋を購入しなければならないのかという意見があるので、一定の配慮をしてもらえないかという意見した。 余っているごみ袋はごみになると思うが、捨てなければいけないとなると不満も出てくると思うので、広報等で周知してほしい。	ごみの量を減らす努力をされてきた方がいることも理解しているが、他方で、既にごみ袋を購入している方もいる。審議会の中で移行期間として2年間で定めたということをご理解いただきたい。 余ったごみ袋については、回収させていただき、海岸清掃や市民一斉清掃などで使用する予定である。 また、移行期間終了時にはごみ袋の出し間違いも想定している。これまでも地域に出向いて説明会を実施していたが、タイミングを見計らいながら改めて周知する必要があると思っている。